



本資料は、サノフィ(フランス、パリ)が2015年7月15日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集し、7月16日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本語で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

サノフィ、将来の成長を牽引する 新たなグローバルビジネスユニット体制を発表

- 専門性を深化させ、成長の原動力に、より明確にフォーカス
- 新たな3つのグローバルビジネスユニット(GBU)、ジェネラルメディスンおよび新興市場、スペシャルティケア、糖尿病および循環器、を組織
- 3つの新GBUは、ピーター・ギュンター、デイビッド・ミーカー、パスカル・ヴィッツがそれぞれ統括
- サノフィパストゥールはオリビエ・シャーマイユ、メリアルはカーステン・ヘルマンが引き続き統括
- 新体制下で、組織の集中および簡略化を図り、成長を牽引

フランス、パリー2015年7月15日ーサノフィ(EURONEXT:SAN および NYSE:SNY) は本日、組織を変更し、ジェネラルメディスンおよび新興市場、スペシャルティケア、糖尿病および循環器、サノフィパストゥール、メリアルの 5 つのグローバルビジネスユニットで構成される新組織体制に移行する計画について発表しました。新体制は、2016年1月より施行されます。組織変更に伴う法的・社会的な諮問については今後適宜進めていきます。

サノフィは、100年以上にわたり製薬業界において事業経験を有する複数の企業を統合することで、その伝統を築いてきました。この伝統とともに、患者さん、医療関係者、そして顧客の変わりゆくニーズに対応して、高度に革新的な治療ソリューションを提供してきました。そして 2015年には 6品目、2016~2018年にはほぼ6カ月に1品目ずつ新薬の上市を予定するなど、大幅な成長が期待されています。

サノフィ最高経営責任者(CEO)のオリヴィエ・ブランディクールは、「サノフィでは、新組織下で事業体制を簡略化し、最大限の成長を実現すべく集中して取り組んでまいります。本日発表した新組織体制は、革新性の高い医薬品をお届けしてきた当社の伝統に基づき、新薬およびワクチン事業のさらなる成長を確保していく上で欠かせないステップだと考えております」と述べています。

「ジェネラルメディスンおよび新興市場」グローバルビジネスユニットは、ピーター・ギュンターが指揮を執り、サノフィが提供する標準的な医薬品、ジェネリック医薬品、コンシューマー・ヘルスケア製品、および新興市場における全ての医薬品事業で構成されます。

「スペシャルティケア」グローバルビジネスユニットは、名称をサノフィ・ジェンザイムとし、デイビッド・ミーカーが指揮を執ります。同ユニットは、サノフィの希少疾患用医薬品、多発性硬化症、オンコロジーと免疫領域(現在開発中の sarilumab と dupilumab を含む)で構成されます。

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー
www.sanofi.co.jp



「糖尿病および循環器」グローバルビジネスユニットは、パスカル・ヴィッツが指揮を執り、サノフィの糖尿病治療薬と循環器領域薬で構成されます。循環器領域薬には、現在、米国食品医薬品局(FDA)と欧州医薬品庁(EMA)にて審査中の **Praluent (alirocumab)** などがあります。

サノフィパスツールとメリアルについては、従来からグローバルビジネスユニットとして活動しており、今後もワクチンと動物用医薬品それぞれのポートフォリオを展開していきます。サノフィパスツールはオリビエ・シャーマイユ、メリアルはカーステン・ヘルマンが引き続き統括します。

研究開発部門と生産部門と同様に、新たなビジネスユニット体制により良く対応できるよう全てのファンクションをグローバル化していきます。

エグゼクティブ・コミッティの構成に変更はありません。本日発表した人事異動は、2016年1月1日付で実施します。

以上

サノフィについて

サノフィは、患者さんのニーズにフォーカスした治療ソリューションの創出・研究開発・販売を行うグローバルヘルスケアリーダーです。糖尿病治療、ヒト用ワクチン、革新的新薬、コンシューマー・ヘルスケア、新興市場、動物用医薬品、ジェンザイムを中核としています。サノフィはパリ(EURONEXT: SAN)およびニューヨーク(NYSE: SNY)に上場しています。

今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは大幅に異なる可能性があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関する FDA や EMA などの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とグループが外部成長の機会から利益を得る可能性に付随する不確実性、ならびにサノフィの 2014 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。